資治通鑑 第 155 巻

令和 5 年 1 月 21 日

【梁紀十一】　起重光大淵獻，盡玄黓困敦，凡二年。

■梁、●北魏、続国訳漢文大成 経子史部 第 9 巻 110p

高祖武皇帝十一中大通三年（辛亥，５３１年）

■春，正月，辛巳（17-8+1=１０日），**上**は南郊に祀し，大赦す。

●■魏の尚書右僕射の**鄭先護**（去年東郡を攻め使む）は洛陽の守られざるを聞き，士衆は逃散し，遂に來奔する。丙申（32-8+1=２５日），**先護**を以て征北大將軍と為す。

■二月，辛丑（37-37+1=１日），**上**は明堂に祀す。

【魏の節閔帝の即位】

●［**爾朱世隆は節閔帝を擁立、沈黙の理由**］魏の**敬宗**の囚われしより，宮室は空しきこと百日に近し（昨年爾朱兆は敬宗を囚えて晉陽に連れ去り、この月節閔帝は即位し宮に入る）。**爾朱世隆**は洛陽に鎮し，商旅は流通し，盜賊は作(おこ)らず。**世隆**の兄弟は密議し，**長廣王**の疏遠にして，又た人望無きを以て，更に近親を立てんと欲す。儀同三司廣陵王の**恭**は，**羽**（孝文帝の弟）之子也，學を好み志度有り，正光中に給事黃門侍郎を領し，**元叉**が權を擅にするを以て，瘖病（おし）に托して（9-111p）龍華佛寺に居り，交通する所無し。永安の末，**敬宗**に白すもの有り、言わく、

「王は陽(いつわり)に瘖なり，將に異志有らんとす。」

恭は懼れて，上洛山（洛州の上洛郡上洛県、陝西省漢中道商県、現・商洛市商州区）に逃げる，洛州刺史は執りて之を送り，系治すること之久しく，狀（反狀）無きを以て免かるるを獲たり。關西の大行台郎中の**薛孝通**は**爾朱天光**を說いて曰く、

「**廣陵王**は，**高祖**（孝文帝の廟号）の猶子（兄弟の子、相続権の無い子）なり，夙(つと)に令望有り，沉晦して言わざること，多く年所を歷たり。若し奉じて以て主と為せば，必ず天人は允葉（続は允叶、和合）せん。」

天光は**世隆**等と之を謀り，其の實に瘖なるを疑い，**爾朱彥伯**をして潛に往きて敦く諭し，且つ之を脅か使め，**恭**は乃ち曰く、

「天は何をか言わん哉！」（論語の陽貨篇の孔子の言）

世隆等は大いに喜ぶ。**孝通**は，**聰**（140 巻齊の明帝建武二年にあり）之子也。己巳（5+60-37+1=２９日），**長廣王**は邙山の南に至り，**世隆**等は之が為に禪文を作り，泰山太守の遼西の**竇瑗**(とうえん)をして鞭を執りて獨り入ら使め，**長廣王**に啟して曰く、

「天人之望むは，皆な**廣陵**に在り，願わくは**堯**、**舜**之事を行わん。」

遂に禪文に署す。**廣陵王**（則ち節閔帝、諱は恭、字は脩業、廣陵の惠王羽の子）は表を奉じて三たび讓り，然る後に即位す。大赦し，改元して普泰とす。黃門侍郎の**邢子才**は赦文を為り，**敬宗**が太原王の**榮**を枉殺する之狀を敘し，**節閔帝**は曰く、

「永安（魏の孝莊帝則ち敬宗の年号）は手ずから強臣を翦るは，德を失うと為すに非ず，直だ天は未だ亂を厭わざるを以て，故に**成濟**之禍い（成濟が高貴鄉公を殺す事 77 巻魏の元帝景元元年にあり）に逢う耳。」

因りて左右を顧みて筆を取り，自ら赦文を作り，直だ言う、

「門下（魏晉以来命を出すは皆門下省に由る、故にその端を発する、必ず門下に勅すという）、**朕**は寡德を以て，運は樂推に

屬し，億兆と，茲の大慶を同じくせんと思う，肆眚（罪人を赦す）之科は，一に常式に依らん。」
帝は口を閉ざすこと八年，是に至りて乃ち言い，中外は欣然として，以て**明主**と為し，太平に至るを望む。
●［爾朱榮の廟、再評価するも焼ける］庚午（6+60-37+1=３０日），詔して以わく、
「三皇は『皇』を稱し，五帝は『帝』を稱し，三代は『王』を稱す，蓋し遞（たが）いに沖挹（皇降りて帝と称し、帝降りて王と称すは蓋し遞いに謙下を為すなり）を為す。秦より以來，競いて『皇帝』を稱す，予は今但だ『帝』を稱す，亦た已に褒なり矣。**爾朱世隆**に儀同三司を加え，**爾朱榮**に相國、晉王を贈り，九錫を加えん。」
世隆は百官をして**榮**の配饗を議せ使む，司直（後魏の永安三年に廷尉に司直十人を置き、位は正監の上に在り、旧事を署せず、唯だ御史の検敕の事を覆理す）の**劉季明**は曰く、
「若し**世宗**（宣武帝の廟号）に配するには，時に於いて功無し。若し**孝明**に配せんには，親ら其の母（胡后を殺す事）を害す。若し**莊帝**（孝武帝、始めて敬宗を改諡して莊帝という、この時當に称して懐帝と為すべし）に拝するには，臣と為りて終らず。此を以て之を論じれば，配す可き所無し。」
世隆は怒りて曰く、
「汝は應に死すべし！」
季明は曰く、
「下官は既に議首（洛陽伽藍記には議臣）と為り，禮に依り而して言う，聖心に合わざれば，翦戮されんことは唯だ命のままなり！」(9-112p)
世隆も亦た之を罪せず。**榮**の為に**高祖**の廟廷に配す。又た**榮**の為に廟を首陽山に立て，**周公**の舊廟に因りて而して之を為り，以為えらく**榮**の功は周公に比す可し。廟は成り，尋いで火の焚く所と為る。
●［爾朱兆は廢立之謀に預からず］**爾朱兆**は廢立之謀に預からざるを以て，大いに怒り，**世隆**を攻めんと欲す。**世隆**は**爾朱彥伯**をして往きて之を諭さ使め，乃ち止む。
●［魏主の論理は明確］初め，**敬宗**は安東將軍の**史仵龍**、平北將軍の**陽文義**をして各々兵三千を領して太行嶺を守ら使め，侍中の**源子恭**を河內に鎮せしむ。**爾朱兆**の南に向かうに及び，**仵龍**、**文義**は衆を帥いて先ず降り，是に由りて**子恭**之軍は風を望みて亦た潰え，**兆**は遂に勝ちに乘りて直ちに洛陽に入る。是に至りて，**爾朱世隆**は**仵龍**、**文義**之功を論じ，各々千戶侯に封じる。**魏主**は曰く、
「**仵龍**、**文義**は，王に於いて功有り，國に於いて勳無し。」
竟に許さず。**爾朱仲遠**は滑台に鎮し，表して其の下都督を用いて西兗州（陳・濟陰郡を領す）刺史と為し，先ず用いて後に表す。詔して答えて曰く、
「已に能く近く補せば，何の遠く聞するを勞せん！」
●［ペルシャの獅子を返す、獣で人を罪せず］**爾朱天光**之**万俟丑奴**を滅ぼす（前巻前年にあり）也，始め波斯の獻ずる所の師子（152 巻大通三年にあり）を獲りて，洛陽に送る。**節閔帝**の即位するに及び，詔して曰く
「禽獸之を囚えるは則ち其の性に違う。」
命じて本國に送り歸らしむ。使者は波斯が道は遠く達する可からざるを以て，路に於いて之を殺し而して返る。有司は旨に違うを劾し，**帝**は曰く、
「豈に獸を以て而し人を罪す可けんや！」
遂に之を赦す。

●［魏は東陽包囲］魏の鎮遠將軍の清河の**崔祖螭**等は青州七郡（青・北海・樂安・高陽・河間・樂陵を領し、東陽に治す）之衆を聚めて東陽（山東省東臨道恩県西北、現・徳州市平原県）を圍み，旬日之間に，衆は十餘萬となる。刺

史の東萊の**王貴平**は城民を帥いて固く守り，太傅咨議參軍の**崔光伯**をして城を出でて慰勞せ使め，其の兄の**光韶**は曰く、

「城民は陵縦（東陽の民は州家の勢いを差挟みみて屬郡を陵暴し恣縦）すること日久しく，衆は怒ること甚だ盛んなり，慰諭の能く解く所に非ず。家弟往けば，必ず全くせず。」

貴平は之を強い，既に外に出，人は之を射殺す。

【反爾朱氏勢力の糾合】

●［高乾は爾朱氏討伐の挙兵］幽、安、營、並四州行台の**劉靈助**は，自ら謂えらく、方術は以て人を動かす可しと，又た推算して**爾朱氏**の將に衰えんとするを知り，乃ち兵を起こして燕王、開府儀同三司、大行台を自稱して，

「**敬宗**の為に仇を復す」

と聲言し，且つ妄りに圖讖を述べて，云わく、

「**劉氏**は當に王。たらんとす」

是に由りて幽、瀛、滄（魏の熙平元年に瀛冀二州を分けて置く州、饒安城に治し、浮陽・樂陵・安德三郡を領す）、冀之民は多く之に從う。之に從う者は夜火を擧げて號と為し，火を擧げざる者は諸村共に之を屠る。兵を引きて南に博陵之安國城（直隸省保定道安國県、現・保定市安国市）に至る。**爾朱兆**は監軍の**孫白鷂**を遣わして冀州に至らしめ，

「民馬を調發す」

と託言し，**高乾**兄弟が馬を送るを俟ち而して之を收めんと欲す。**乾**等は之を知り，前河內太守の**封隆之**等と合い謀り，潛に壯士を部勒して，襲いて信都に據り，**白鷂**を殺し，刺史の**元嶷**を執る。**乾**等は其の父の**翼**を推して州事を行わしめんと欲し，**翼**は曰く、(9-113p)

「鄉里を和集し，我は**封皮**（皮は封隆之の小字）に如かず。」

乃ち**隆之**を奉じて州事を行わしめ，**敬宗**の為に哀を擧げ，將士は皆な縞素し，壇に升りて衆に誓い，檄を州郡に移し，共に**爾朱氏**を討たんとし，仍って**劉靈助**の節度を受ける。**隆之**は，**磨奴**（封磨奴は 119 巻宋の高祖永初元年に見える）之族孫也。

●［高敖曹の奮闘］殷州刺史の**爾朱羽生**は五千人を將して信都を襲い，**高敖曹**は甲を擐く暇あらず，十餘騎を將いて馳せて之を擊つ。**乾**は城中に在りて五百人を繩下し，追い救うに未だ及ばず，**敖曹**は已に兵を交え，**羽生**は敗走す。**敖曹**の馬槊は絕世にして，左右は一百に當たざるは無く，時の人は之を**項籍**に比す。

●［高歡まず信都を討たんとす］**高歡**は胡關（続は壺關、山西省冀寧道壺關県 or 長子県、現・長治市壺関県）・大王山（上黨郡屯留県に鳳凰山ありて別名大王山、現・長治市屯留区）に屯すること六旬，乃ち兵を引きて東に出で，

「信都を討たん」

と聲言す。信都の人は皆な懼れ，**高乾**は曰く、

「吾は聞く、**高晉州**（爾朱榮は高歡を晉州刺史とす）の雄略は世を蓋(おお)い，其の志は人の下に居らず。且つ**爾朱**は無道にして，君を弑し民を虐げ，正に是れ英雄の功を立てる之會なり，今日之來たるは，必ず深謀有り，吾は當に輕馬して之を迎え，密に意旨に參(うかが)うべし，諸君は懼れる勿かれ也。」

乃ち十餘騎を將いて**封隆之**の子の**子繪**と潛に**歡**に滏口に謁し，**歡**を說いて曰く、

「**爾朱**は酷逆にして，痛みは人神を結び，凡そ曰(ここ)に知有るもの，奮う思わざるは莫（続は孰）し。明公の威德は素より著れ，天下は心を傾ける，若し兵は義を以て立てば，則ち屈強之徒（爾朱の黨）は明公の敵と為

すに足らず矣。鄙州は小なりと雖も，戸口は十萬を減じず，穀秸之稅（秸は藁）は，軍資を濟うに足る。願わくは公は其の計を熟思すべし。」

乾は辭氣慷慨にして，**歡**は大いに悅び，之と與に帳寢（テント）を同じくす。

●[李元忠の名声、借金棒引き]初め，河南太守の趙郡の**李顯甫**は，豪俠を喜び，諸**李**の數千家を殷州の西山に集め方五六十里に之を居之らしむ。**顯甫**は卒し，子の**元忠**は之を繼ぐ。家は素より富み，多く貸を出して利を求め，**元忠**は悉く契（借金契約書）を焚きて責を免じ（棒引き），鄉人は甚だ之を敬う。時に盜賊は蜂起し，清河は五百人有り西に戍す。還りて，趙郡を經，路梗がるを以て，共に**元忠**に投じる。**元忠**は奴を遣わして導と為し，曰く、

「若し賊に逢えば，但だ**李元忠**遣わすと道え。」

言の如くするに，賊は皆な捨避す。**葛榮**の起つに及び，**元忠**は宗黨を帥いて壘を作り以て自ら保ち，大槲樹の下に坐し，前後命に違う者凡そ三百人を斬る。賊は至り，**元忠**は輒ち擊ちて之を卻く。葛榮は曰く、

「我は中山より此に至り，連に**趙李**（趙郡の李氏）の破る所と為る，何を以て能く大事を成さん！」

乃ち衆を悉くして攻圍し，**元忠**を執えて以て軍に隨う。賊は平らぎ（爾朱榮が葛榮を討伐），就きて南趙郡（魏の太和 11 年趙郡の南讚・平鄉・栢人・中丘・鉅鹿・廣阿を分かちて南鉅鹿郡と為す、後改めて南趙郡と為し、殷州に属す）太守に拜す。酒を好み，政績無し。

●[高歡は元忠と出会い意気投合]**爾朱兆**が**敬宗**を弑するに及び，**元忠**は官を棄てて歸り，兵を擧げて之を討たんと謀る。會々**高歡**は東に出で，**元忠**は露車に乘り，素箏濁酒を載せ以て奉迎す。(9-114P) **歡**は其の酒客なるを聞き，未だ即ち之を見ず。**元忠**は下車して獨り坐し，酒を酌み脯を擘きて之を食し，門者に謂って曰く、

「本、公は俊傑を招延すと言う，今國士が門に到るを聞き，哺を吐き洗を輟めず（周公と漢の高祖との故事），其の人知る可し，吾が刺を還せ，通づる勿かれ也！」

門者は以て告げ，**歡**は遽に之を見，引き入れ，觴再び行るや，**元忠**は車上より箏を取りて之を鼓し，長歌慷慨し，歌は闋り，**歡**に謂って曰く、

「天下の形勢は見る可し，明公は猶ほ**爾朱**に事える邪？」

歡は曰く、

「富貴は皆な彼に因りて致す所なり，安んぞ敢えて節を盡くさざるや！」

元忠は曰く、

「英雄に非ざる也！**高乾邕**（高乾の字は乾邕）兄弟は來るや未だや？」

時に**乾**は已に**歡**に見えるも，**歡**は之を紿きて曰く、

「從叔（高歡は高乾兄弟と同じく勃海に出る）の輩は粗なり，何ぞ肯えて來るや！」

元忠は曰く、

「粗なりと雖も，並びに事を解す。」

歡は曰く

「趙郡は醉えり矣。」

人をして扶けて出で使む。**元忠**は肯えて起たず，**孫騰**は進みて曰く、

「此の君は天が遣わし來たらしむ，違う可からざる也。」

歡は乃ち復た留めて與に語り，**元忠**は慷慨流涕し，**歡**も亦た悲しみて自ら勝えず。**元忠**は因りて策を進めて曰く、

「殷州は小にして，糧仗無し，以て大事を濟すに足らず。若し冀州（魏は信都に治す。高乾邕兄弟はこれに據る）に向かえば，**高乾邕**兄弟は必す明公の主人と為らん，殷州は便ち以て委ねるを賜わらん。冀、殷は既に合せば，滄、瀛、幽、定は自然に弭服（びふく）せん，唯だ**劉誕**（時に相州刺史）は黠胡（契胡種）なり、或は當に乖拒すべし，然れども明公之敵に非ず。」

歡は急に**元忠**の手を握り而して焉に謝す。

●［高歡は麥地で整肅なり］**歡**は山東に至り，士卒を約勒（猶約束）し，絲毫之物も侵犯するを聽さず，麥地を過ぎる毎に，**歡**は輒ち歩みて馬を牽く。遠近は之を聞き，皆な稱す、

「**高儀同**（爾朱氏は歡に儀同三司を加える）は兵を將いて整肅なり」

と，益々心を歸す焉。

【高歡勢力は信都に自立】

●［高歡は信都に入城］**歡**は糧を相州刺史の**劉誕**に求め，**誕**は與えず。車營（北齊紀には軍営）の租米有り，**歡**は掠めて之を取る。進みて信都に至り，**封隆之**、**高乾**等は開門して之を納れる。**高敖曹**は時に外に在りて地を略し，之を聞き，**乾**を以て婦人と為し，遺るに布裙（婦人の下裳）を以てす。**歡**は世子の**澄**をして子孫の禮を以て之を見せ使め，**敖曹**は乃ち與に俱に來たる。

●［魏政権は高歡懐柔に失敗］癸酉（三月 9-7+1=３日），魏は長廣王の**曄**を封じて東海王と為し，青州刺史の魯郡の**王肅**を以て太師と為し，淮陽王の**欣**を太傅と為し，**爾朱世隆**を太保と為し，**長孫稚**を太尉と為し，趙郡の**王謐**を司空と為し，徐州刺史の**爾朱仲遠**、雍州刺史の**爾朱天光**を並びて大將軍と為し，并州刺史の**爾朱兆**を天柱大將軍と為す。**高歡**に爵の勃海王（出身地の王に封じて歓心を買おうとする）を賜り，征して入朝せ使む。**長孫稚**は固く太尉を辭し（世衰えて佐け難しと），乃ち以て驃騎大將軍、開府儀同三司と為す。**爾朱兆**は天柱を辭して，曰く、

「此れ叔父の終わる所之官なり，我は何の敢えて受けるや！」

固辭して，拜せず，尋いで都督十州（南は汾晉を盡し、北は雲朔を極める）諸軍事を加え，**(9-115p)** 并州刺史を世襲せしむ。**高歡**は辭して征に就かず。**爾朱仲遠**は徙りた大梁（兗州の統内）に鎮し，復た兗州刺史を加える。

●［爾朱一族の貪暴競争］**爾朱世隆**之初めて僕射と為る也（大通二年），**爾朱榮**之威嚴を畏れ，深く自ら刻厲し，心を幾案（案も机の意味、尚書省の机の上のみに専念）に留め，賓客に應接し，開敏之名有り。**榮**の死するに及び，顧憚する所無く，尚書令と為り，家居して事を視，坐して台省に符し，事は大小と無く，先ず**世隆**に白さざれば，有司は敢えて行わず。尚書郎の**宋游道**、**邢昕**をして其の聽事に在り東西別坐し，辭訟を受納し，（世隆の）命と稱して施行せ使む。公に貪淫を為し，生殺は自ら恣にする。又た軍士之意を收めんと欲し，泛（ひろ）く（続は汎）階級を加え，皆な將軍と為し，復た員限（人数制限）無し，是より勳賞之官は大いに猥濫を致し，人は復た貴ばず。是の時，**天光**は專ら關右を制し，**兆**は並、汾を奄有し，**仲遠**は命を徐、兗に擅にし，**世隆**は中に居りて事を用い，競いて貪暴を為す。而して**仲遠**は尤も甚だしく，所部の富室大族は，多く誣うるに反を謀るを以てし，其の婦女財物を籍沒し（仲遠の）私家に入れ，其の男子を河に投げ，是の如き者は勝げて數える可からず。滎陽より已東は，租稅は悉く其の軍に入れ，洛陽に送らず。東南の州郡は牧守より以下士民に至るまで，**仲遠**を畏るること豺狼の如し。是に由り四方之人は皆な**爾朱氏**を惡み，而るに其の強きを憚り，敢えて違う莫き也。

●己丑（25-7+1=１９日），魏は涇州刺史の**賀拔岳**を以て岐州刺史と為し，渭州刺史の**侯莫陳悅**を秦州刺史

と為し，並せて儀同三司を加える。

●［侯淵は劉靈助を討伐］魏は大都督の**侯淵**、驃騎大將軍の代人の**叱列延慶**をして**劉靈助**を討た使め，固城（中山城の東北、安国城の西南）に至り，**淵**は其の衆を畏れ，兵を引いて西に入らんと欲し，關に據り險を拒ぎ，以て其の變を待たんと欲す。**延慶**は曰く、

「**靈助**は人を庸し，妖術を假りて以て衆を惑わす。大兵一たび臨めば，彼は皆な其の符厭（劉靈助が書して符勅を為り以て厭勝するを謂う）を恃み，豈に肯えて力を戮(あわ)せて死を致し，吾が兵（続により補充）と勝負を爭わん哉！出でて城外に營し，詐りて西に歸ると言うに若かず。**靈助**は之を聞けば，必ず自ら寬縱す，然る後に軍を潛めて之を擊てば，往けば則ち擒と成らん矣。」

淵は之に從い，出でて城西に頓し，聲して還らんと欲すと雲う，丙申（32-7+1=２６日），精騎一千を簡びて夜發し，直に**靈助**の壘に抵る。**靈助**は戰いて敗れ，之を斬り，首を洛陽に傳える。

●［靈助の首は占い通り洛陽に至る］初め，**靈助**は兵を起こし，自せ勝負を佔い，曰く、

「三月之末，我は必ず定州に入らん，**爾朱氏**は久しからずして當に滅びん。」

靈助の首函が定州に入るに及び，果たして是の月之末を以てす。

【梁の昭明太子の死と波紋】

■［梁の名君太子は卒す］夏，四月，乙巳（41-36+1=６日），**昭明太子**の**統**は卒す。**太子**は元服（天監14年）を加えるより，**上**は即ち朝政を省錄せ使め，百司の進事は，前に填委し，**太子**は詐謬を辨析し，秋毫も必ず睹(み)る，但だ改正せ令むのみ，**(9-116p)**案劾を加えず，法獄を平斷し，全宥する所多く，寬和にして衆を容れ，喜慍は色に形(あら)われず。好く讀書し文を屬し，才俊を引接し，賞愛して倦む無し。宮を出でて二十餘年（禁中を出て東宮にいる），聲樂を畜えず。霖雨積雪毎に，左右を遣わして閭巷を周行し，貧者を視て之を賑わす。天性孝謹にして，東宮に在り，燕居すると雖も，坐起は恆に西に向かい（敢えて上の台を背にせず），或は宿（前夜）に召され當に入るに，危坐して旦に達する。疾に寢ねるに及び，**帝**の憂いを貽(のこ)さんことを恐れ，救して參問すれば（帝が勅を出して候問する時は、太子は疾を力めて手書し自ら奏答を為す），輒ち自ら力めて手書す。卒するに及び，朝野は惋愕し，建康の男女は，宮門に奔走し，滿路（続は道路）に號泣す。

●癸丑（49-36+1=１４日），魏は**高歡**を以て大都督、東道（太行恒山以東）大行台、冀州刺史と為し，又た安定王の**爾朱智虎**を以て肆州刺史と為す。

●魏の**爾朱天光**は夏州に出で，將を遣わして**宿勤明達**を討たしむ，癸亥（59-36+1=２４日），**明達**を擒とし，洛陽に送り，之を斬る。

●丙寅（2+60-36+1=２７日），魏は侍中、驃騎大將軍の**爾朱彥伯**を以て司徒と為す。

●魏は有司に詔して復た（梁に競わざるが故なり）「偽梁」と稱するを得ざらしむ。

●五月，丙子（12-6+1=７），魏の荊州城民は**趙修延**を斬り，復た**李琰之**を推して州事を行わしむ。（前巻前年に趙修延が李琰之を執る）

●魏の**爾朱仲遠**は都督の**魏僧勖**等をして**崔祖螭**を東陽に討た使め，之を斬る。

■［昭明太子と上の緊張関係］初め，**昭明太子**は其の母の**丁貴嬪**（普通七年に死す）を葬り，人を遣わして墓地之吉なる者を求めしむ。或は宦者の**俞三副**に賂して地を賣るを求め，雲わく

「若し錢三百萬を得れば，百萬を以て之に與えん。」

三副は密に上に啟して，言わく
「太子の得る所の地は，今地の上に於いて吉と為るに如かず」。
上は年老いて忌む多く，即ち命じて之を市わしむ。葬畢わり，道士有りて云わく、
「此の地は長子に利あらず，若し之を厭（厭勝）せば，或は申延（申は寛くする）す可からん。」
乃ち蠟鵝（蠟の鷺鳥）及び諸物を為りて墓側の長子の位に埋め。宮監（東宮の官名）の鮑邈之、魏雅は初め皆な太子の寵有り，邈之は晩に雅より疏んじられ，乃ち密に上に啟して云わく、
「雅は太子の為に厭禱す。」
上は檢掘を遣（続は無し）わし，果たして鵝物を得，大いに驚き，將に其の事を窮めんとす。徐勉は固く諫め而して止め，但だ道士を誅す。是に由りて太子は終身慚憤し，自ら明かにする能わず。卒するに及び，上は其の長子の南徐州刺史の華容公の歡を征して建康に至らしめ，立てて以て嗣と為さんと欲し，其の前事を銜み，猶豫すること之久しく，卒に立てず，庚寅（26-6+1=２１日），遣りて鎮に還らしむ。
■臣光は曰く、君子之正道に於けるは，少頃も離れる可からざる也，跬歩も失う可からざる也。昭明太子之仁孝なる，武帝之慈愛なるを以て，一たび嫌疑之跡に染み，身は憂を以て死し，罪は後昆に及び，吉を求めて凶を得，湔滌す可からず，戒めざる可けん哉！是を以て詭誕之士は，(9-117p) 奇邪之術は，君子之を遠ざける。
■［晉安王主簿の周弘正の言］丙申（32-6+1=２７日），太子の母の弟の晉安王の綱を立てて皇太子と為す。朝野は多く以て順（正嫡孫を立てるを順と為す）ならずと為す，司議（司義に作るべし）侍郎の周弘正は，嘗て晉安王の主簿為り，乃ち奏記して曰く、
「謙讓の道は廢れ，多く年所を歷たり。伏して惟うに明大王殿下は，天挺んでて將に聖ならんとす（論語子罕篇に、太宰は子貢に問いて曰く、夫子は聖者か。子貢曰く、固より沽これを縦にして將に聖ならんとす），四海は仁に歸し，是を以て皇上は德音を發し，大王を以て儲副と為す。意う者殿下が目夷の上仁之義（左傳に、宋の桓公疾む、太子茲父固く請いて曰く、目夷長にして且つ仁なり、君其れこれを立てよと。公子魚（目夷の字）に命ず。子魚辭して曰く、能く國を以て讓る、仁孰れかこれよりも大ならん、臣及ばざるなりと。遂に走りて退くと）を抗げ，子臧の大賢之節（左傳成公十三年に、諸侯は秦を伐つ。曹の宣公は帥に卒す。曹人は公の子負芻をして守らしむ。公子欣時（子臧の字）は、曹伯の喪を逆う。負芻は太子を殺して自ら立つ。既に葬りて、子臧將に亡げんとす。国人皆これに従わんとす。成公乃ち懼れる。罪を告げ且つこれを請う。子臧は乃ち反る。諸侯は曹の成公を討ち、執りて諸々を京師に帰り、將に子臧を王に見えしめてこれを立てんとす。辭して曰く、聖は節を達し、次は節に非ざるなり。聖なる能わずと雖も、敢えて守を失わんやと。遂に逃れて宋に奔る。負芻。是を成公と為す）を執り，玉輿（莊子讓王篇に曰く、越人は三世其の君を弑す。王子搜はこれを患え、丹穴に逃げる。而して越國は君無く、王子搜出です。越人これを薫するに艾を以てし、乘するに玉輿を以てす。王子搜は綏を授かりて車に登り、天を仰ぎて呼びて曰く、君が君、獨り以て我を捨く可からざるかと）を逃れ而して乘らず，萬乘を棄て屣を脫する（孟子盡心章句に曰く、舜は天下を棄つるを視ること、猶ほ敝屣の如きなり）が如くならんことを聞くを願う，庶わくは澆競（澆薄競争）之俗を改めて，以て吳國之風（呉の太伯が天下を以て讓り、逃れて呉に君たるをいう）を大にせんと。古に其の人有り，今其の語を聞き，能く之を行う者は，殿下に非ず而して誰あるや！無為之化をして復た遂古に生じ，讓王之道をして來葉（来世）に墜ちざら使めんには，豈に盛んならず歟！」
王は従う能わず。弘正は，捨（周捨は天監の始めに柄用せらる）之兄子也。
■［朱異は徐摛を左遷させる］太子は侍讀の東海の徐摛を以て家令と為し，管記（公府の記室）を兼ね，尋ぎて領直（梁の制度で上台・東宮に皆領直有り、直衛の兵を領す）を帶びしむ。摛は文體輕麗にして，春坊（東宮を春宮と謂い、宮坊を春坊と謂う）は盡く之を學び，時人は之を宮體と謂う。上は之を聞き，怒り，摛を召し，誚責を

加えんと欲す。見るに及びて，應對は明敏にして，辭義は觀る可し，意は更に釋然たり。因りて經史及び釋教を問い，**摛**は商較從横にして，應對は響くが如し，**上**は甚だ歎異を加え，寵遇すること日々に隆し。領軍の**朱異**（続は朱异）は悦ばず，親する所に謂って曰く、

「**徐叟**は兩宮に出入し，漸く來たり逼られる，我は須く之が所を為すべし。」

遂に間に乗りて上に白して曰く、

「**摛**は年老い，又た泉石を愛し，意は一郡自ら養うに在り。」

上は**摛**が真に之を欲すると謂い，乃ち**摛**を召し，謂って曰く、

「新安は大いに山水好し。」

遂に出だして新安太守と為す。

■六月，癸丑（49-35+1=１５日），華容公の**歡**を立てて豫章王と為し，(9-118p) 其の弟の枝江公の**譽**を河東王と為し，曲阿公の**譽**を岳陽王と為す。**上**は人言息まざる（順ならずの声）を以て，故に**歡**の兄弟を封じるに大郡を以てし，用って其の心を慰む。之久しく，**鮑邈之**は人を誘略するに坐し，罪は死に至らず，**太子**の**綱**は**昭明**之冤を追思し，涙を揮いて之を誅す。

【高歡は決起】

●［高歡は全権委任で爾朱氏討伐の兵］魏の**高歡**は將に兵を起こして**爾朱氏**を討たんとし，鎮南大將軍の**斛律金**、軍主の善無（前漢は雁門郡、後漢は定襄郡に属し、魏晋は省く、後魏天平二年に始めて善無軍と為す。山西省雁門道右玉県南、現・朔州市右玉県）の**庫狄千**は**歡**の妻の弟の**婁昭**、妻之姉の夫の**段榮**と皆な之を成すを勸める。**歡**は乃ち詐りて書を為り，

「**爾朱兆**（命を幷汾に擅にす、高歡は偽りて兆の符を作る）は將に六鎮の人を以て契胡に配して部曲と為さんとす」と稱し，衆は皆な憂懼す。又た并州の符を為り，兵を徵して**步落稽**（稽胡）を討たしめ，萬人を發し，將に之を遣らんとす。**孫騰**は都督の**尉景**と為に留まるを請う（既に二人は鎮人の為に留まるを請う、必ず再び請うの情により、これを下に扇動す）こと五日，此くの如くする者は再びし，**歡**は親ら之を郊に送り，涕を雪いで別を執る，衆は皆な號慟す，聲は郊野を震わす。**歡**は乃ち之を諭して（まずその心を感動させ、しかる後にこれを諭す）曰く、

「**爾**と俱に失鄉の客と為り，義は一家に同じ，意わず上に在るもの征發すること乃ち爾るとは！今直に西に向う（信都より幷汾に行く）とも，已に當に死すべし，軍期に後れるは，又た當に死すべし，國人（爾朱は契胡なり）に配するは，又た當に死すべし，奈何せん？」

衆は曰く、

「唯だ反する有る耳！」

歡は曰く、

「反するは乃ち急計（非常の計）なり，然れども當に一人を推して主と為すべし，誰か可なる者ぞや？」

衆は共に**歡**を推し，**歡**は曰く、

「**爾**の鄉里は制し難し。**葛榮**を見ざる乎？百萬之衆有ると雖も，曾て法度無く，終に自ら敗滅す。今吾を以て主と為せば，當に前と異なるべし，漢人を陵ぎ，軍令を犯すを得る毋く，生死は吾に任せれば則ち可なり。然らざれば，天下の笑いと為す能わず。」

衆は皆な頓顙（頓首）して曰く、

「死生は唯だ命のままなり！」

歡は乃ち牛を椎して士を饗し，庚申(56-35+1=２２日)，兵を信都に起こし，亦た未だ敢えて**爾朱氏**に叛く

と顯言せざる也。

●［爾朱羽生を謀殺して決起す］會々**李元忠**は兵を擧げて殷州に逼り，**歡**は**高乾**をして衆を帥いて之を救わ令む（胡三省曰く、高乾は高歡の密謀に預かり、而してこれをして殷州を救わしむるは、此れこれをして爾朱羽生を誘い擒とせしむるに過ぎざるなり）。乾は輕騎にして入りて刺史（續は無し）の**爾朱羽生**を見，與に軍計を指畫し，**羽生**は**乾**と俱に出で，因りて擒として此を斬り，**羽生**の首を持ちて**歡**に謁す。**歡**は膺を撫でて曰く、

「今日反すること決せり矣！」（胡三省曰く、その始めに猶李元忠・高乾邑の心を疑い、二人の行動をみてやっと決断するとする）

乃ち**元忠**を以て殷州刺史と為し，廣阿に鎮せしむ。**歡**は是に於いて抗表し**爾朱氏**を罪狀し，**爾朱世隆**（尚書令、故に隠すことが可能）は此を匿して通ぜず。**(9-119p)**

●［楊氏一族誅殺］魏の**楊播**及び弟の**椿**、**津**は皆な名德有り。**播**は剛毅にして，**椿**、**津**は謙恭なり，家は世々孝友にして，緦服（三月の喪服、凡そ三從の服は緦麻を服す。緦麻を服するほどの遠き親族までも同居するをいう）爨を同じくし，男女百口，人は間言無し。**椿**、**津**は皆な三公に至り，一門に七郡の太守，三十二州刺史あり。**敬宗**之**爾朱榮**を誅する也，**播**の子の**侃**は其の謀に預る（前巻前年にあり）。城陽王の**徽**、**李彧**は，皆な其の姻戚也。**爾朱兆**は洛に入り，**侃**は逃げて華陰に歸り，**爾朱天光**は**侃**の婦の父の**韋義遠**をして之を招か使め，與に盟（ちか）い，其の罪を貰さんことを許す。**侃**は曰く、

「彼は言を食むと雖も，死者は一人に過ぎず，猶ほ冀くは百口を全くせん。」

乃ち出でて之に應じ，**天光**は之を殺す。時に**椿**は致仕し，其の子の**昱**と華陰に在り，**椿**の弟の冀州刺史の**順**、司空の**津**、**順**の子の東雍州刺史の**辨**、正平太守の**仲宣**は皆な洛に在り。秋，七月，**爾朱世隆**は**楊氏**の謀反を誣奏し，收めて之を治さんと請い，**魏主**は許さず。**世隆**は苦しみて（ねんごろに）請い，**帝**は已むを得ず，有司に命じて檢案して以て聞せしむ。壬申（8-5+1=４日）夜，**世隆**は兵を遣わして**津**の第を圍ましめ，**天光**も亦た（世隆・天光は既に東西示し合わせていた）兵を遣わして**椿**の家を華陰に掩わしむ。東西之族は少長と無く皆な之を殺し，其の家を籍沒す。**世隆**は奏して云わく、

「**楊氏**は實に反し，收兵と相い拒めり，皆な已に格殺す。」

帝は惋悵すること之久しく，言わず而して已む，朝野は之を聞き，痛憤せざるは無し。**津**の子の**逸**は光州刺史為り，**爾朱仲遠**は遣使して就きて之を殺す。唯だ**津**の子の**愔**は收えられるの時に適々出でて外に在り，逃げ匿れ，免かるるを獲，往きて**高歡**を信都に見え，泣きて家禍を訴え，因りて為に**爾朱氏**を討つ之策を言う。**歡**は甚だ之を重んじ，即ち行台郎中に署す。（胡三省曰く、楊愔は門地既に高く、又幹用有り。高歡は兵を起こすの初め、人望に籍りて以て重きを為し、才幹に籍りて以て用を為す。擢んでて之を用いる所以なり。士は賢不肖と無く、朝に入りて嫉まる。田横島の逃は實に此に基づくと）

■乙亥（11-5+1=７日），**上**は軒に臨みて**太子**に策拜し，大赦す。

●［爾朱世隆は魏の中心におる］丙戌（22-5+1=１８日），魏の司徒の**爾朱彥伯**は旱を以て位を遜（のが）る。戊子（24-5+1=２０日），**彥伯**を以て侍中、開府儀同三司と為す。**彥伯**は兄弟中に於いて差（やや）過惡無し。**爾朱世隆**は固く太保を讓り，**魏主**は特に儀同三師之官を置き，位は上公（太師・太傅・太保の三司）之下に次す，庚寅（26-5+1=２２日），**世隆**を以て之と為す。。**斛斯椿**は**朱瑞**を**世隆**に譖し（朱瑞が敬宗に親遇さられしを以てす），**世隆**は之を殺す。

■庚寅（26-5+1=２２日），詔す、

「凡そ宗戚の服屬有る者は，並びに（婦人は）湯沐（の邑）を賜い，（男子は）鄉亭侯を食む可し，（服屬の）遠近

に隨いて差を為す。」

■壬辰（28-5+1=２４日），吏部尚書の**何敬容**を以て尚書右僕射と為す。**敬容**は，**昌宇**（続は昌寓、何尚之の弟の子）之子也。

●［**爾朱氏は高歡を迎撃**］魏の**爾朱仲遠**、**度律**等は**高歡**の兵を起こすを聞き，其の強きを恃み，以て慮りと為さず，獨り**爾朱世隆**は之を憂う。**爾朱兆**は歩騎二萬を將いて井陘に出でて，殷州に趣き，(9-120p)**李元忠**は城を棄てて信都に奔る。八月，丙午（42-34+1=９日），**爾朱仲遠**、**度律**は兵を將いて**高歡**を討つ。九月，己卯（15-4+1=１２日），魏は**仲遠**を以て太宰と為し，庚辰（16-4+1=１３日），**爾朱天光**を以て大司馬と為す。

●癸巳（29-4+1=２６日），**魏主**は父の廣陵の**惠王**を追尊して**先帝**と為し，母の**王氏**を**先太妃**と為し，弟の**永業**を封じて高密王と為し，子の**恕**を勃海王と為す。

■［**蕭衍は同泰寺で七日間涅槃經を講義**］冬，十月，己酉（45-33+1=１３日），**上**は同泰寺に幸し，法座に升り，《涅槃經》を講じること，七日而して罷む。

■［**侯正則の叛乱鎮圧**］樂山の**侯正則**は，先に罪有りて鬱林（漢の古都、廣西省蒼梧道桂平県の東、現・広西荘族自治区貴港市桂平市）に徙され，亡命を招誘し，番禺（広東省粤海道番禺県、現・広州市番禺区）を攻めんと欲し，廣州刺史の**元景仲**は討ちて之を斬る。**正則**は，**正德**之弟也。

【高歡は元朗を立てて本格侵攻】

●[**高歡は元朗を即位させる**]**孫騰**は**高歡**を說いて曰く、

「今朝廷は隔絕し，號令は稟（う）くる所無く，權に立つる所有らざれば，則ち衆は將に沮散せんとす。」

歡は之を疑い，**騰**は再三固く請い，乃ち勃海太守の**元朗**（廢帝、諱は朗、字は仲哲、章武王融の第三子）を立てて**帝**と為す。**朗**は，**融**（章武王融は葛榮の殺される）之子也。壬寅（38-33+1=６日），**朗**は信都城の西に即位し，改元して中興とす。**歡**を以て侍中、丞相、都督中外諸軍事、大將軍、錄尚書事、大行台と為し，**高乾**を侍中、司空と為し，**高敖曹**を驃騎大將軍、儀同三司、冀州刺史と為し，**孫騰**を尚書左僕射と為し，河北行台（前年敬宗が任命）の**魏蘭根**を右僕射と為す。

●［**高歡の反間の計で爾朱氏混乱**］己酉（45-33+1=１３日），**爾朱仲遠**、**度律**は驃騎大將軍の**斛斯椿**、車騎大將軍、儀同三司の**賀拔勝**、車騎大將軍の**賈顯智**と陽平（山東省東臨道莘県、現・聊城市莘県）に軍す。**顯智**は名は**智**，字を以て行われ，**顯**は**度**之弟也。**爾朱兆**は井陘に出で，廣阿に軍す，衆は十萬と號す。**高歡**は反間（スパイ、工作員、離間の計）を縱ちて，云う、

「**世隆**兄弟は**兆**を殺さんと謀る」，

復た云う、

「**兆**は**歡**と同じく**仲遠**等を殺さんと謀る」，

是に由りて送（たが）いに相い猜貳し，徘徊して進まず。**仲遠**等は屢々**斛斯椿**、**賀拔勝**をして往きて**兆**を諭さ使め，**兆**は輕騎三百を帥いて來たりて**仲遠**に就き，同じく幕下に坐し，意色は平らかならず，手に馬鞭を舞い，長嘯して凝望し，**仲遠**等が變有らんことを疑い，遂に趨り出でて，馳せ還る。**仲遠**は**椿**、**勝**等を遣わして追い，之を曉說（諭し説く）せしめ，**兆**は**椿**、**勝**を執りて營に還る。**仲遠**、**度律**は大いに懼れ，兵を引いて南に遁げる。**兆**は**勝**の罪を數え，將に之を斬らんとし，曰く、

「爾が**衛可孤**を殺す（150 巻普通五年にあり）は，罪の一也。天柱薨じ，爾は**世隆**等と倶に來たらず而して東して**仲遠**を征するは，罪の二也。我は爾を殺さんと欲すること久し矣，今復た何をか言わん？」

勝は曰く、

「**可孤**は國の巨患為り，**勝**の父子は之を誅す，其の功は小さからず，反りて以て罪と為す乎？天柱が戮せられしは，君を以て臣を誅するなり，**勝**は寧ろ王に負くとも，朝廷に負かず。今日之事は，生死は王に在り。但で寇賊は密邇し，骨肉は隙を構え，古より今に及びて，未だ是くの如く而して亡びざる者有り。**勝**は死を憚らず，恐らくは王は策を失わん。」

兆は乃ち之を捨く。

●［高歡は爾朱兆を撃破］**高歡**は將に**兆**と戰わんとし，而るに其の衆の強きを畏れ，（9-121p）以て親信都督（魏末に諸将が兵を擅にして置き親兵を領せしむ）の**段韶**に問う，**韶**は曰く、

「所謂衆と者，衆人之死を得るなり。所謂強者とは，天下之心を得るなり。**爾朱氏**は上に**天子**を弑し，中に公卿を屠し，下は百姓を暴い，王は順を以て逆を討つ，雪を湯に沃ぐが如し，何の衆強か之れ有らん！」

歡は曰く、

「然りと雖も，吾は小を以て大に敵にす，恐らくは天命無く濟す能わざる也。」

韶は曰く、

「韶は聞く、『小能く大に敵するは，小道あり大淫すればなり。』（左傳にあり、随の大夫李梁の言）『皇天は親無く，唯だ徳は是れ輔く。』（書経蔡仲之命の辭）と。**爾朱氏**は外に天下を亂し，内に英雄の心を失い，智者は為に謀らず，勇者は為に鬥わず，人心は已に去り，天意は安んぞ從わざる者有らん哉！（綱目には原文の安の得の字あり、天意安んぞ得ん、の方が意が通じる）」

韶は，**榮**（段榮は高歡と親善たり）之子也。辛亥（47-33+1=１５日），**歡**は大いに**兆**を廣阿に破り，其の甲卒五千餘人を俘とす。

■十一月，乙未（31-3+1=２９日），**上**は同泰寺に幸し，《般若經》を講し，七日に而して罷む。

●庚辰（16-3+1=１４日），魏の**高歡**は兵を引いて鄴を攻め，相州刺史の**劉誕**は城に嬰りて固く守る。

■●［劉世明は請いて魏に帰還］是の歳，魏の南兗州（魏の正光中に置き、譙城に治す、陳留・梁・譙・沛・下蔡・北梁・馬頭などの郡を領す）の城民の**王乞得**は刺史の**劉世明**を劫かして，州を擧げて來降す。**世明**は，**芳**（劉芳は儒学を以て孝文・宣武の二帝に用いられる）之族子也。**上**は侍中の**元樹**を以て鎮北將軍、都督北討諸軍事と為し，譙城に鎮す。**世明**を以て征西大將軍、郢州刺史と為し，儀同三司を加える。**世明**は受けず，固く北に歸るを請い，**上**は之を許す。**世明**は洛陽に至り，持ずる所の節を奉送し，鄉里に歸り，仕えず而して卒す。

高祖武皇帝十一中大通四年（壬子，５３２年）

【梁は北魏の混乱につけ込む】

■春，正月，丙寅（2-2+1=１日），南平王の**偉**を以て大司馬と為し，**元法僧**を太尉と為し，**袁昂**を司空と為す。

■［正徳を臨賀王と為す］西豐侯の**正徳**を立てて臨賀王と為す。**正徳**は自結於朱異，**上**は既に**昭明**の諸子を封ず，**異**は**正徳**が職を失うを言い，故に之を王とす。（帝は嘗て正徳を養いて子と為す、既にして本の爵秩に還り、諸子と齒するを得ざるをいう）

■［元悦を洛に入らしむ］**太子**の右衛率の**薛法護**を以て司州牧と為し，魏王の**悦**が洛に入るを衛送せし

む。

■庚午（6-2+1=５日），太子の**綱**之長子の**大器**を立てて宣城王と為す。

●［高歡は鄴を陥落させる］魏の**高歡**は鄴を攻め，地道を為り，（崩れ防止の）柱を施し而して之を焚き，城は陥りて地に入る。壬午（18-2+1=１７日），鄴を抜き，**劉誕**を擒とし，**楊愔**を以て行台右丞と為す。時に軍國は多事なり，文檄教令，皆な**愔**及び開府咨議參軍の**崔凌**より出る。**凌**は，**逞**（崔凌は燕を去り魏に帰し、道武帝に殺される）之五世孫也。

■［元法僧を東魏王として送り込む］二月，太尉の**元法僧**を以て東魏王（梁は既に元悦を魏王として送り込んでいる）と為し，遣りて北に還らしめんと欲し，兗州刺史の**羊侃**を軍司馬と為し，**(9-122p) 法僧**と偕（とも）に行かしむ。

■［蕭綸の罪露見も赦す］揚州刺史の邵陵王の**綸**は人を遣わして市に就きて，錦彩絲布數百匹を賒買（懸けで購買）せしめ，市人は皆な邸店を閉じて出でず。少府丞の**何智通**は事に依りて啟聞す。**綸**は責を被りて第に還り，乃ち防閣の**戴子高**等を遣わして槊を以て**智通**を都巷に刺さしめ，刃は背に出ず。**智通**は**子高**を識り，其の血を取り以指を以て車壁に畫して「邵陵」の字を為り，乃ち絶つ，是に由りて事は覺わる。庚戌（46-32+1=１５日），**綸**は坐して免ぜられ庶人と為す，之を第に鎖し，三旬（続は二旬）を經て，乃ち鎖を脱し，之頃して，封爵を復す。

【高歡と爾朱氏の鄴城決戦】

●［元朗は鄴に入る］辛亥（47-32+1=１６日），魏の**安定王**（元朗）は**敬宗**を追諡して**武懐皇帝**と曰う，甲子（60-32+1=２９日），**高歡**を以て丞相、柱國大將軍、太師と為す。三月，丙寅（2-1+1=２日），**高澄**を以て驃騎大將軍と為す。丁丑（13-1+1=１３日），**安定王**は百官を帥いて入りて鄴に居る。

●［爾朱兆と爾朱世隆との和睦］**爾朱兆**は**爾朱世隆**等と互いに相い猜阻し，**世隆**は辭を卑くし禮を厚くして**兆**を諭し，之をして洛に赴か使めんと欲し，

「唯だ其の欲する所のままにせん」

と，又た**節閔帝**に**兆**の女を納れて**后**と為さんと請う。**兆**は乃ち悦び，並せて**天光**、**度律**と更に誓約を立て，復た相い親睦す。

●［爾朱陣営の迎撃態勢構築］**斛斯椿**は陰に**賀拔勝**に謂って曰く、

「天下は皆な**爾朱**を怨毒す，而るに吾等は之が用を為す，亡びること日無し矣，之を圖るに如かず。」

勝は曰く、

「**天光**は**兆**と各々一方に據る，盡く之を去らんと欲するは甚だ難し，之を去るとも盡くさざれば，必ず後患と為らん，奈何や？」

椿は曰く、

「此れ致し易き耳。」

乃ち**世隆**を說く、

「**天光**等を追いて洛に赴き，共に**高歡**を討たん。」

世隆は屢々**天光**を征し，**天光**は至らず，**椿**をして自ら往きて之を邀えて，曰わ使む、

「**高歡**は亂を作す，王に非ざれば定める能わず，豈に坐して宗族の夷滅を視る可けん邪！」

天光は已むを得ず，將に東に出でんとす，策を雍州（岐州より遷りて雍州となる）刺史の**賀拔岳**に問い，**岳**は曰く、

「王家は三方（兆は幷汾、天光は關隴、仲遠は徐兗）に跨據し，士馬は殷盛なり，**高歡**の烏合之衆は，豈に能く敵を為さんや！但だ能く同心して力を戮（あわ）せば，往きて捷たざる無し。若し骨肉相い疑えば，則ち存を圖る之暇あらず，安んぞ能く一を制せんや！下官の見る所の如きは，且（しばら）く關中に鎮し以て根本を固め，鋭師を分遣して衆軍と勢いを合わせるに若くは莫し，進みては以て敵に克つ可く，退きては以て自ら全くする可し。」

天光は從わず。閏月，壬寅（38-31+1=８日），**天光**は長安より，**兆**は晉陽より，**度律**は洛陽より，**仲遠**は東郡より，皆な鄴に會し，衆は二十萬と號し，洹水（鄴城の南を経る）を夾みて而して軍し，**節閔帝**は**長孫稚**を以て大行台と為し，之を總督せしむ。

●［高敖曹の軍は単独で迎撃］**高歡**は吏部尚書の**封隆之**をして鄴を守ら令め，癸丑（49-31+1=１９日），出でて紫陌（水經注に、漳帥は東して山を出て鄴を過ぎ、又北して祭陌の西を経る。戦国の世、俗巫は河伯の為に婦を娶り、この陌に祭る。田融は以て祭陌と為す。趙の建武 11 年に紫陌浮橋を水上に造る）に頓し，大都督の**高敖曹**は鄉里の部曲の**王桃湯**等三千人を將して以て從う。**歡**は曰く、

「**高都督**が將いる所は皆な漢兵なり，恐らくは事を集すに足らず，**(9-123p)**鮮卑の兵千餘人を割きて相い雜えて之を用いんと欲す，何如や？」

敖曹は曰く、

「**敖曹**の將いる所は，練習すること已に久しく，前後の格鬥，鮮卑に減ぜず。今若し之を雜えれば，情は相い洽（あまね）かず，勝ちては則ち功を爭い，退きて則ち罪を推さん，更に配するを煩わさざる也。」

●［高歡は爾朱軍を撃破］庚申（56-31+1=２６日），**爾朱兆**は輕騎三千を帥いて鄴城を夜襲し，西門を叩き，克たず而して退く。壬戌（58-31+1=２８日），**歡**が將いる戰馬は二千に滿たず，步兵は三萬に滿たず，衆寡敵せず，乃ち韓陵（韓陵山は鄴県にあり）に於いて圓陣を為り，牛驢を連繫して以て歸道を塞ぐ，是に於いて將士は皆な死志有り。**兆**は**歡**を望見し，遙に**歡**を責めるに己に叛くを以てす，**歡**は曰く、

「本は力を戮せる所以の者は，共に帝室を輔けんとす。今**天子**は何くに在るや？」

兆は曰く、

「**永安**（敬宗の年号、故に以てこれを称す）は天柱を枉害し，我は仇に報いる耳。」

歡は曰く、

「我は昔親（みずか）ら天柱の計を聞き，汝は戶前に在りて立つ，（両軍に対してその陰謀を暴き、以て爾朱の罪を正す）豈に反せずと言うを得ん邪！且つ君を以て臣を殺す，何の報いか之れ有らん！今日義は絕える矣！」

遂に戰う。**歡**は中軍を將い，**高敖曹**は左軍を將い，**歡**の從父の弟の**岳**は右軍を將いる。**歡**は戰いて利あらず，**兆**等は之に乘り，**岳**は五百騎を以て其の前を沖き，別將の**斛律敦**は散卒を收めて其の後を躡み，**敖曹**は千騎を以て栗園より出でて之を横擊し，**兆**等は大いに敗れ，**賀拔勝**は徐州刺史の**杜德**と與に陣に於いて**歡**に降る。**兆**は**慕容紹宗**に對し膺を撫して曰く、

「公の言（慕容紹宗は兆が高歡をして州鎮の兵を統べしむるを諫める）を用いず，以て此に至る！」

輕騎にして西（鄴より晉陽へ）に走らんと欲し，**紹宗**は旗を反し角を鳴らして，散卒を收め軍を成し而して去る。**兆**は晉陽に還り，**仲遠**は東郡（秦は東郡を置く、晉は濮陽國とす。後また東郡とし滑台城に治す、河南省河北道滑県、現・安陽市滑県）に奔る。**爾朱彥伯**は**度律**等の敗れるを聞き，自ら兵を將いて河橋を守らんと欲し，**世隆**は從わず。

【斛斯椿は爾朱氏一族を誅殺】

●［爾朱氏一族は洛陽で斬られる］**度律**、**天光**は將に洛陽に之かんとし，大都督の**斛斯椿**は都督の**賈顯度**、**賈顯智**に謂って曰く、
「今先ず**爾朱氏**を執らざれば，吾が屬は死して類為からん矣。」
乃ち夜桑下に於いて盟約し倍道して先ず還る。**世隆**は其の外兵參軍の**陽叔淵**をして單騎に馳せて北中（北中郎府城、河橋の北岸）に赴き，敗衆を簡閱し，次を以て之を內れ使む。**椿**は至り，城に入るを得ず，乃ち詭りて**叔淵**に說いて曰く、
「**天光**の部下は皆な是れ西人なり，聞く大いに洛邑を掠し，長安に遷都せんと欲すと，宜しく先ず我を內れて以て之が備えを為すべし。」
叔淵は之を信じる。**夏，四月**，甲子（0-0+1=１日）朔，**椿**等は入りて河橋に據り，盡く**爾朱氏**之黨を殺す。**度律**、**天光**は之を攻めんと欲し，會々大雨ふり晝夜止まず，士馬は疲頓し，弓矢は施す可からず，遂に西に走り，灤陂津（河橋の西に在り、雷波ともいう。爾朱兆が洛を犯す時、騎を帥いて浅を踏みて歩渡した所）に至り，人の擒える所と為り，**椿**の所に送られる。**椿**は行台の**長孫稚**をして洛陽に詣りて狀を奏せ使め，別に**賈顯智**、**張歡**をして騎を帥いて**世隆**を掩襲し，之を執え使む。**彥伯**は時に禁直に在り，**長孫稚**は神虎門に於いて啟陳す、
「**高歡**の義功は既に振う，請う**爾朱氏**を誅せん。」
節閔帝は舍人の**郭崇**をして**彥伯**に報ぜ使め，**彥伯**は狼狽して走り出で，人の執る所と為り，**世隆**と俱に閶闔門の外に於いて斬り，（9-124p）其の首を**度律**、**天光**と並せて**高歡**に送る。
●［節閔帝は高歡を勞らうに失敗、侯景降伏］**節閔帝**は中書舍人の**盧辯**をして**歡**を鄴に勞（ねぎ）ら使め，**歡**は之をして**安定王**に見え使め，**辯**は抗辭して從わず，**歡**は奪う能わず，乃ち之を捨く。**辯**は，**同**（盧同は元叉に附きて進む）之兄子也。辛未（7-0+1=８日），驃騎大將軍、行濟州事の**侯景**は**安定王**に降る。**景**を以て尚書僕射、南道大行台、濟州刺史と為す。
■●［爾朱仲遠は梁に亡命、部下は誅殺］**爾朱仲遠**は來奔す。**仲遠**の帳下都督の**喬寧**、**張子期**は滑台より詣りて歡に降る。**歡**は之を責めて曰く、
「汝は**仲遠**に事え，其の榮利を擅にし，盟契（盟約）百重，生死を同じくするを許す。前（前年仲遠が兵を挙げて洛に向かう時をいう）に**仲遠**は徐州より逆を為す，汝は戎首と為る。今**仲遠**は南に走り，汝も復た之に叛く。**天子**に事えて則ち忠ならず，**仲遠**に事えて則ち信無し，犬馬も尚ほ之を飼う者を識る，汝は曾（すなわ）ち犬馬にさえ之れ如かず！」
遂に之を斬る。
●［賀拔岳は宇文泰の計で長安攻略、高歡に附く］**爾朱天光**之東に下る也，其の弟の**顯壽**を留めて長安に鎮せしめ，秦州刺史の**侯莫陳悅**を召し，之と俱に東せんと欲す。**賀拔岳**（雍州刺史でもとは長安に治す。蓋し天光は東下し、これをして出でて西北を捍がしむ）は**天光**の必ず敗れるを知り，**悅**を留めて共に**顯壽**を圖り以て**高歡**に應じんと欲し，計りて未だ出ずる所有らず。**宇文泰**は**岳**に謂って曰く、
「今**天光**は尚ほ近く，**悅**は未だ必ずしも貳心有らず，若し此を以て之に告げれば，其の驚懼せんことを恐れる。然れども**悅**は主將と為ると雖も，物を制する能わず，若し先ず其の衆を說けば，必ず人は留まる心有り。**悅**は進みては**爾朱**之期を失い，退きては人情の變動を恐れ，此に乘りて**悅**を說けば，事は遂げざる無し。」
岳は大いに喜び，即ち**泰**をして**悅**の軍に入りて之を說か令め，**悅**は遂に**岳**と共に長安を襲う。**泰**は輕騎を帥いて前驅と為り，**顯壽**は城を棄てて走り，追いて華陰に至り，之を擒とす。**歡**は**岳**を以て關西大行台と

為し，**岳**は**泰**を以て行台左丞，領府司馬と為し，事は鉅細無く皆な之に委ねる。

●［**馮紹隆は青州刺史の弼を殺害**］**爾朱世隆**之**高歡**を拒ぐ也，齊州行台の尚書の**房謨**をして兵を募りて四瀆（津の名、臨済県にあり。水經注に、河水は東北して、四瀆の津に流れ、津の西側岸に、河に臨みて四瀆の祠有り。其の河より済に入り、泗より淮に入り、淮より江に達し、水經周流するを以て故に四瀆の名有り。山東省章丘県西北 20 里、現・済南市章丘区）に趣か使め，又た其の弟の青州刺史の**弼**をして亂城に趣き，北に渡ると揚聲して，掎角之勢いを為さ使む。韓陵の既に敗れるに及び，**弼**は東陽に還り，**世隆**等の死するを聞き，來奔せんと欲し，數々左右と臂を割きて盟を為す。帳下都督の**馮紹隆**は，素より**弼**の信待する所と為り，**弼**を說いて曰く、

「今方に契闊（勤苦）を同じくす，宜しく更に心前之血を割き以て衆に盟（ちか）うべし。」

弼は之に從い，大いに部下を集め，胸を披き**紹隆**をして之を割か令む。**紹隆**は因りて刃を推して之を殺し，首を洛陽に傳える。

●丙子（12-0+1=１３日），安東將軍の**辛永**は建州を以て**安定王**に降る。

【高歡は節閔帝を殺し孝武帝を立てる】

●［**高歡は節閔帝を幽閉す**］辛巳（17-0+1=１８日），**安定王**は邙山に至る。**高歡**は**安定王**の疏遠なるを以て，僕射の**魏蘭根**をして洛邑を慰諭し，且つ**節閔帝**之人と為りを觀使め，復た之を奉じんと欲す。**蘭根**は以えらく、**帝**は神采高明なり，恐らくは後に於いて制し難し，**高乾**兄弟及び黃門侍郎の**崔凌**と共に**歡**に之を廢すを勸める。**(9-125p)** 歡は百官を集め宜しく立つべき所を問う，應ずる者有る莫し，太僕の代人の**綦毋俊**は盛んに**節閔帝**の賢明にして，宜しく社稷に主たるべきを稱す，**歡**は欣然として之を是とする。**凌**は色を作して曰く、

「若し賢明を言えば，自ら我が**高王**が，徐ろに大位に登るを待つ可し。**廣陵**（節閔帝はもと廣陵王）は既に逆胡の立てる所と為る，何ぞ猶ほ**天子**と為すを得ん！若し**俊**の言に從えば，王師は何ぞ義舉と名づけん？」

歡は遂に**節閔帝**を崇訓佛寺に幽す。

●**歡**は洛陽に入り，**斛斯椿**は**賀拔勝**に謂って曰く、

「今天下の事は，吾と君とに在る耳，若し先ず人を制せずんば，將に人の制する所と為る。**高歡**は初めて至り，之を圖ること難からず。」

勝は曰く、

「彼は時に功有り，之を害するは不祥なり。比（このごろ）數夜**歡**と與に同宿し，具つ往昔之懷を序す，兼ねて兄の恩意を荷なうこと甚だ多し，何を苦しみて之を憚からん！」

椿は乃ち止む。

●［**汝南王の悅を立てるのを中止**］**歡**は**汝南王**の**悅**が，**高祖**之子なるを以て，召して之を立てんと欲す，其の狂暴にして常無きを聞き，乃ち止む。

●［**平陽王の脩は即位へ**］時に諸王は多く逃げ匿れ，尚書左僕射の平陽王の**脩**（孝明帝の從兄弟）は，**懷**（高祖の子）之子也，田舍に匿れる。**歡**は之を立てんと欲し，**斛斯椿**をして之を求めしむ。**椿**は**脩**が親する所の員外散騎侍郎の太原王の**思政**を見，王の在る所を問い，**思政**は曰く

「須く問う意を知るべし。」

椿は曰く、

「立てて**天子**と為さんと欲す。」

思政は乃ち之を言う。**椿**は**思政**に從いて**脩**を見，**脩**は色變じ，**思政**に謂って曰く、

「我を賣る無きを得ん邪？」
曰く、
「不(しから)ざる也。」
曰く、
「敢えて之を保する乎？」
曰く、
「變態百端，何ぞ保す可けん也？」
椿は馳せて**歡**に報じる。**歡**は四百騎を遣わして**修**を迎えて氈帳（胡夷の酋帥の居る天幕）に入らしめ，誠を陳し，泣(なみだ)下りて襟を沾す，**修**は讓るに寡德を以てす，**歡**は再拜し，**修**も亦た拜す。**歡**は出でて服御を備え，湯沐を進め，達夜（終夜）嚴警す。昧爽（未明），文武は鞭を執りて（軍中で朝服を備えず、代わりに鞭を以て敬する）以て朝し，**斛斯椿**をして勸進表を奉ら使む。**椿**は帷門に入り，磬折（体を曲げてこれを揖し、石磬の形の曲折する若き）して首を延べ而して敢えて前まず，**修**は**思政**をして表を取ら令め之を視，曰く、
「便ち**朕**と稱せざるを得ず矣。」
乃ち**安定王**の為に詔策を作り而して位を禪らしむ焉。
●［孝武帝即位］戊子（24-0+1=２５日），**孝武帝**（諱は修、字は孝則も廣平の武穆王懐の第三子）は（洛城の）東郭之外に即位し，代都の舊制（魏は孝文帝が夏を用て夷を変ぜしより、宣武帝・孝明帝は位に即くに、皆漢魏の制を用いる。今また夷の禮を用いる）を用い，黑氈を以て七人に蒙らしめ，**歡**は其の一に居り，**帝**は氈上に於いて西に向いて天を拜し畢り，入りて太極殿に御し，群臣朝賀し，閶闔門に升りて大赦し，改元して太昌とす。**高歡**を以て大丞相、天柱大將軍、太師と為し，定州刺史を世襲せしむ。庚寅（26-0+1=２７日），**高澄**に侍中、開府儀同三司を加える。
●［司馬子如の登用、人材選別］初め，**歡**は兵を信都に起こし，**爾朱世隆**は**司馬子如**が**歡**と舊有るを知り，侍中、驃騎大將軍より出して南岐州刺史と為す。**歡**は洛に入るや，**子如**を召して大行台尚書と為し，朝夕左右し，軍國に參知せしむ。廣州刺史の廣寧（廣寧郡は朔州に属し、石門・中川の二県を領す）の**韓賢**は，**(9-126p)** 素より**歡**の善くする所と為る，**歡**は洛に入り，凡そ**爾朱氏**の除する所の官爵は例して皆な削奪し，唯だ賢なるのみ故の如し。
●［爾朱仲遠の逃亡］前御史中尉の**樊子鵠**を以て尚書左僕射を兼ね，東南道大行台と為し，徐州刺史の**杜德**と**爾朱仲遠**を追わしめ，**仲遠**は已に境を出，遂に**元樹**を譙に攻める。
●［賀拔岳は關中に自立の決断］丞相の**歡**は**賀拔岳**を征して冀州刺史と為し，**岳**は**歡**を畏れ，單馬にて入朝せんと欲す。行台右丞の**薛孝通**は**岳**を說いて曰く、
「**高王**は數千の鮮卑を以て**爾朱**の百萬之衆を破る，誠に亦た敵し難し。然るに諸將は或は素より其の上に居り，或は之と等夷（同等）なるもの，首を屈して之に從うと雖も，勢いは已むを獲るに非ず。今或は京師に在り，或は州鎮に據り，**高王**は之を除けば則ち人望を失い，之を留めれば則ち腹心之疾いと為らん。且つ**吐萬人**（爾朱兆の字）覆た敗走すると雖も，猶ほ并州に在り，**高王**は方に內に群雄を撫し，外に勍敵に抗し，安んぞ能く其の巢穴を去りて，公と關中之地を爭そわん乎！今關中の豪俊は皆な心を公に屬す，願わくは其の智力を效さん。公は華山を以て城と為し，黃河を塹と為し，進みて以て山東を兼ねる可し，退きては以て函谷を封じる可し，奈何ぞ手を束ねて制を人に受けんと欲する乎！」
言未だ卒わざるに，**岳**は**孝通**の手を執りて曰く、
「君の言は是也。」

乃ち遜辭して啟を為し而して征に就かず。

●壬辰（28-0+1=２９日），丞相の**歡**は鄴に還り，**爾朱度律**、**天光**を洛陽に送り，之を斬る。

●［節閔帝を毒殺］五月，丙申（32-30+1=３日），**魏主**は**節閔帝**を門下外省に鴆し，詔して百司は會喪し，葬るに殊禮を用いる。

●沛郡の**王欣**を以て太師と為し，趙郡の**王諶**を太保と為し，南陽王の**寶炬**を太尉と為し，**長孫稚**を太傅と為す。**寶炬**は，**愉**（京兆王愉も亦孝文帝の子）之子也。丞相の**歡**は天柱大將軍を固辭し，戊戌（34-30+1=５日），之を許す。己酉（45-30+1=１６日），清河王の**但**を司徒と為す。

●侍中の河南の**高隆之**は，本は**徐氏**の養子なり，丞相の**歡**は命じて以て弟と為し，**歡**の勢いを恃んで公卿に驕狎し，南陽王の**寶炬**は之を毆ちて，曰く、

「鎮兵（魏は洛陽に遷り、北人の留まりて北鎮に居る者は率ね尺籍に隷す、これをいう）は何ぞ敢えて爾（しか）るや！」

魏主は**歡**の故を以て，六月，丁卯（丁犯×、3+60-59+1=５日），**寶炬**を黜けて驃騎大將軍と為し，第に歸す。

●**魏主**は廣平の**武穆王**之諱を避けて，改めて**武懷皇帝**に謚して**孝莊皇帝**と曰い，廟號を**敬宗**とす。

●秋，七月，庚子（36-29+1=８日），魏は復て南陽王の**寶炬**を以て太尉と為す。

【高歡は晉陽に駐屯】

●［歡は爾朱兆を擊ちて晉陽に大丞相府］壬寅（38-29+1=１０日），魏の丞相の**歡**は兵を引いて滏口に入り，大都督の**庫狄干**は井陘に入り，**爾朱兆**を擊つ。庚戌（46-29+1=１８日），**魏主**は驃騎大將軍、儀同三司の**高隆之**をして步騎十萬を帥いて丞相の**歡**に太原に會さ使め，因りて**隆之**を以て丞相の軍司と為す。**歡**は武鄉（晉は武鄉県を置き上黨に屬す。石勒は分けて武鄉郡を置く。山西省冀寧道榆社県の西、現・晋中市榆社県）に軍し，**爾朱兆**は大いに晉陽を掠し，北に秀容に走る。并州は平らぐ。**歡**は晉陽の四塞（太原郡の地は東に太行常山を阻は、西は蒙山、南は霍太山・高壁嶺、北巴東陘四陘關を阨す）なるを以て，乃ち大丞相府を建てて（9-127p）而して之に居る。（高齊の建国に至るまで晉陽は陪都）

●■［元樹は魏梁に翻弄される］魏の夏州遷民の**郭遷**は青州に據りて反し，刺史の**元嶷**（去年澎城に鎮せしむ）は城を棄てて走る。行台の**侯景**等に詔して之を討たしめ，其の城を拔き，**遷**は來奔す。魏の東南道大行台の**樊子鵠**は**元樹**を譙城に圍み，兵を分けて攻めて蒙縣（安徽省淮泗道蒙城県、現・亳州市蒙城県）等五城を取り，以て援兵之路を絕つ。**樹**は衆を帥いて南に歸り，地を以て魏に還さんと請い，**子鵠**等は之を許す，之と誓約す。**樹**の衆は半ば出でるや，**子鵠**は之を擊ち，**樹**及び譙州刺史の**朱文開**を擒とし以て歸る。**羊侃**は行きて官竹（睢陽、今の河南省開封道商邱県の東南、現・商丘市睢陽区。水經注に睢水は睢陽より東南に流れ、梁王の竹園という。官は其の利を収め、因って官竹と呼ぶ）に至り，**樹**が敗れ而して還るを聞く。九月，**樹**は洛陽に至り，之久しく，復た南奔せんと欲し，魏人は之を殺す。

■乙巳（41-28+1=１４日），司空の**袁昂**を以て尚書令を領せしむ。

●冬，十一月，丁酉（33-27+1=７日），日は南至し（冬至），**魏主**は圜丘を祀る。

●［魏は親族を殺す］甲辰（40-27+1=１４日），魏は安定王の**朗**、東海王の**曄**を殺す（二王とも嘗て擁立す）。己酉（45-27+1=１９日），汝南王の**悅**を以て侍中、大司馬と為す。

●魏は**靈太后**の**胡氏**（爾朱榮に河に沈められる）を葬す。

■**上**は魏室の已に定まるを聞き，十二月，庚辰（16+60-56+1=２１日），復た太尉の**元法僧**（この年東魏王と為す）を以て郢州刺史と為す。

●**魏主**は汝南王の**悦**（魏主の叔父）が屬近く地尊きを以て，丁亥（23+60−56+1=２８日），之を殺す。
●魏は大赦し，改元して永興（魏の太宗の即位の初元）とす。**太宗**と同號なるを以て，復た改めて永熙とす。
●**魏主**は丞相の**歡**の女を納れて**后**と為し，太常卿の**李元忠**に命じて幣を晉陽に納れしむ。**歡**は之と宴し，論じて舊事に及び，**元忠**は曰く、
「昔日義を建て，轟轟として大いに樂しむ，比來寂寂として人の問う無し。」
歡は掌を撫でて笑いて曰く、
「此の人は我に兵を起こすを逼る。」
元忠は戲れて曰く、
「若し侍中を與えざれば，當に更に義を建てる處を求めるべし。」
歡は曰く、
「義を建てるは無きを慮からず，止だ此くの如き老翁（高歡自身をいう）の遇う可からざるを畏る耳。」
元忠は曰く、
「止だ此の翁の遇い難きの為に，去らざる所以なり。」
因りて**歡**の須を捋りて大いに笑う。歡は其の雅よりの意を悉し，深く之を重んじる。
●<u>［爾朱兆討伐軍の発動］</u>**爾朱兆**は既に秀容に至り，分けて險隘を守り，出入寇抄す。魏の丞相の**歡**は之を討つと揚聲し，師出でて復た止まる者は數四なり，**兆**の意怠る。**歡**は其の歲首に當に宴會すべきを揣り，都督の**竇泰**を遣わして精騎を以て之に馳せしめ，一日一夜行くこと三百里，**歡**は大軍を以て之に繼く。

令和５年１月５日　　翻訳開始　　10753 文字
令和５年１月 21 日　　翻訳終了　　23280 文字